
あれ、お前の後ろにいるのって・・・

灘

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あれ、お前の後ろにいるのって・・・

【コード】

N6310Q

【作者名】

灘

【あらすじ】

ある日「あれお前の後ろにいるのって・・・」「そういわれて後ろを振り向くとそこには？

(前書き)

初めまして、灘です!!

小説なんて書いたことないので、下手くそですが・・・
「なんじゃこりゃ」と思いながら読んでください

「あ、お登勢さんこんばんわ」

「ああ、まったく銀時！今日使ったっていうカツラと着物を貸しな！
」！」

「ててて、別に構わねーけどよ何に使うんだ？」

すると先ほどお登勢に叩かれた銀時が頭を撫でながら言う

「実は今下にもう閉店はとっくに過ぎてるっていうのに帰ってくれない4人組が居てねエ幕府のお偉いさんだが何だかで乱暴できなくてねエ困っていたところに肝試しをあんたがしたって言うじゃないか」

「なるほど、じゃあそれを着てババアが死ぬアルか？」

先ほどまでどこかにいていた神楽が帰ってきた直後に言う言葉ではない

「いやちがうでしょ。ようするにそれを着てお化けのようになしてお客さんを驚かして追い払うってわけなんですね」

「そついつことだよ」

すると銀時は何かを考えていたがしばらくすると・・・

「おいババア、その役 俺達にやらせてくれねーか？」

「「「え？」「」」

「俺は驚かすということがどれほど面白いかを今日改めてしつてな、ガキだけじゃつまんねーから大人も驚かしてみてーんだよ」

「別にそれはそれでこっちは助かるけど二人もいいのかい？」

お登勢は新八、神楽に方向を向けて聞く

「ええ、なんかちょっと面白そうですし・・・」

「もちろんアル！！」

「じゃあ宜しく頼むよ」

スナックお登勢にて

「いいかい？ブレーカーを落としたりろうそくをもってあんたら3人はいくんだ、いいね？」

「了解」

するとその瞬間さつきまで明るかったスナックお登勢は真っ暗になつた

客4人はざわつき始める

「すみませんねエちよつとブレーカーが落ちちゃったみたいで、すぐに直しますんで待って下さい、あれ？お客様の後ろにいるのって・・・」

客4人は不思議そうな顔していつせいに後ろを見る

(後書き)

異常です!!あ、間違えた以上です!!(ある意味あってはいい
たけど・・・)

すいません、オチとか意味不で、下手くそで、分け分かりませんね
こんな小説を読んでくださってありがとうございます!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6310q/>

あれ、お前の後ろにいるのって・・・

2011年10月8日17時22分発行